

天理図書館蔵『家蔵隠頭書籍目録』紙背文書翻刻

植 田 麦

本稿は、卜部兼雄（良延）筆、天理図書館蔵『家蔵隠頭書籍目録』（吉〇一一）紙背文書の翻刻である。当該の紙背文書を、本稿では仮に『神代卷抄草稿』と呼ぶことにしたい。

『家蔵隠頭書籍目録』は一卷一冊のみで、六七丁からなる。楮紙の共紙表紙。縦三六、横二二、厚さ一・四糎で、右二カ所を紙縫（楮紙）で綴じている。外題はなく、内題に「家蔵隠頭書籍目録」とあり、一丁表・裏と二丁表、四丁表・裏、七丁表に書籍名を記すが、その他には記載がない。

『神代卷抄草稿』は、外題・内題・尾題・跋題等に相当するものはない。各面とも七行で、字高は二〇・五糎。付

訓は朱で、同筆と思われる。他人の書を裏綴じにして書籍目録にするとは考えにくく、また、卜部兼雄の奥書のある書物（『日本書紀神代卷抄』等）との内容的類似からも、本書の著者は卜部兼雄本人と認めたい。序文・跋文・奥書に相当するものを持たないが、「凡例」を有す。

本文について

- 1 底本の本文を可能な限り忠実に翻字することを旨とした。
- 2 漢字は原則として底本に従った。ただし、一部通行のものに改めた箇所がある。
- 3 漢字の送り仮名・訓点はすべて底本のままとした。
- 4 かなの古体・略体・合体は通行のものに改めた。濁

- 点の有無は底本に従った。
- 5 文の切れ目に付された朱点は「・」で示した。
- 6 底本の小書箇所は、大書にしたうえ、一行のものは□、二行のものは■で示した。
- 7 本来、順序は丁数で示すべきところであるが、「一丁表の裏」のように表記すると煩雑になるため、通し番号をもって順序を示した。たとえば、「一丁表の裏」は「1」、「二丁裏の裏」は「4」である。
- 8 天地が逆になっている箇所については、通し番号の上部に*を付した。
- 9 内容にまとまりがあり、もともと連続して綴じられていたと考えられるものをI～Vの五群にまとめて示した。

34 凡例

天ハ理ノ云・

田ハ本心ノ田地・

柱ハ中庸精微至誠ノ真理ニ取ル・

橋ハ感應ノ云・

磐ハ堅固ニ取・

鳥ハ木徳ノ灵也生氣ノ精ヲ云・

33 鹿ハ皮ニ二十八宿ノ文ヲソナヘテ天文ヲ全備セリ・

天ノ象也故ニ言辭ニ取ハ然ト云ニ通ルカ・

大蛇ハ貪瞋痴ニ取リ・

龍雷ハ傳受也・

葦茅「ナドハ」泥地ニ先ツ生シテ・地ヨリ直ニ葉出ル

故ニ本心ノ田地ヨリ直ニ出ル念ニ取テ正直清

淨ノ理ニ取カ・

31* 草ハ妄念胸中ノ荆棘・

稻ハ本心ノ田地ノ正念・

飯ハ中庸精微至誠ノ信心ニ依テ神徳ノ増

スヲ云・

鏡ハ知ニ表スル也・

玉ハ仁ニ表スル也・

槌ハ徒ノ理・

32* 杵ハ徒ニ取・

弟ハ武ノ理・

劍ハ勇ニ取・

籠ハ六合ニ取・

箕ハ地口ニ取・

甕筒簀ハ何レモ筒ノ心カ・凡筒アレハ其中ニ元

火ヲ生シテ・空ノ妙ノアラハル、ヲ云フカ・猶深々ノ

30 工夫傳受アリト見ユ

光ハ威徳ニ取

一「ツ」ツハ出葉ナリヒトハ妙也・無数ノ数也・月ト云

心ナリ・

日ハ(囧)也・天地円相ノ中三ツノ物アリ・

二「ツ」箱ノ蓋ノ心ナリ・西儀相分テ清ハ天トナリ・

濁レルハ地トナルハ箱ト蓋トノ如シ・合スル

時ハ

一ツニシテ・開ク寸ハ二「ツ」ニナル也・物ニシルシヲ付

ヲ札ト云・又二「ツ」ノ心也・物ニシルシヲ付クレバ

二ニナル也・蓋ハ物ヲオヲフ天ノ象ナリ・故ニ清スデフタト云・札ハ下ニ付ル地ノ象ナリ故ニ濁テフダト云・

三「ツ」ハ見ル也刀トノ方ニテ一陽ガアガリテキラ

リト見ユル也・三八人ノ象也・目モマミムメモ

通ズルホトニ・見ト目ト同ジ・日ノ字ニ一点ヲソエテ目ト云也・

四「ツ」ハ夜也日西ニ暗シテ始テ時ヲシルホトニ・又

時ノ象ナリ・世ト云モ同ジ

五「ツ」玉ト云心ナリ・ツ、ハ土也・イハ出ル也・万物

土

ヨリ出ルホトニ・出土也・土ハ中央ニシテ陰陽

共

ニソナハル故ニ・ツ、ト出テ葉ハヲニツ云也・

六「ツ」水ノ象ナリ水ミヅ六マミムメモノ相通ナリ

五行本有ノ体カソコニアリテ・此ヘアラハレ

タルハ六害水ナリ・

七「ツ」夏ナリ・ナノ字ヲ一ツ略シテナツト云・其ハ七

陽炎ナリ・日ノ徳ハ其ノ時コレヲ知ナリ・

八「ツ」八難木ナリ東ノ三生ノ木ニ・五器ヲ加レバ

ハツ也・少陰也・神道ニハ八ヲ万事ノ本

ニトルナリ・諸道共ニハツヲ用ル也・屋社ナドノ

ヤハ八ナリ・ヤツト云声・天地開闢自然ノ

声也・本数ヲイテ・成数ノ六ツヨリ

カヅフレバ・三ツメニアタル・八ト三ト同ジ・

三生三万物ニナリ・万事ノアラハル、ハ八也・

九「ツ」ハ九厄ノ金ナリ・秋万物ヲ零落セシムルハ四

殺害ノ金也・人ノ身ノ堅マリテ善悪ラキエヲ弁

ルハ九厄金ナリ・身カタマリテ念慮トナリ・父母所生ノ身ヲ殺断スル也

十 雄咄ト云声天地ニ通ナリ十八数ノ外ナリ・雄

ハ陽ナリ・津ハ陰ナリ・陽ハ極リテハ散ズ・散

シテハ

又生ズ・十八極リ也・天道ハ極テハ變カズル也・

方

物販^スレ玉販シテハ又生ズ・故ニ土八十一トカ
ク也

II

16 我朝ハ世界ノ東北ニ當ル・東北ハ日出ノ始

ノ方ナル故ニ・國ヲ千界ノ根本トシ・主ヲ日神

ノ正統トス・其教タル陰陽不測ノ神道也・

故ニ我朝ヲ根元トシテ日ノ國トシ日本ト

名ケ・震旦ヲ枝葉トシテ星ノ國トシ震旦ト云・

天竺ヲ花實トシテ月ノ國トス月氏國ト号

ス・神道ハ我朝根元ノ國ノ道ナレバ三教ノ

15 根也・故ニ云・釋迦孔丘共ニ性命ヲ天地ニ受

ケ德行ヲ夙夜ニ施ス是我神明ノ託スル

ニ非ズヤト「云々」・是以神道ニ於テハ・曾以儒

佛老莊ノ教ヲ嫌ハヌ・皆我道ノ枝葉

花實也ト云ヘリ・サレバ必我國一洲ノ教ニ

モ非ズ廣ク千界ノ教ノ根元ナリ・故ニ神ト云

モ我國ノ神ノミヲ云ニ非ズ・普ク天地ハ百万ノ神

14 ヲ云ユヘニ・竺土ノ佛菩薩ト云ヒ・震旦ノ聖覽ト

云八百^{ヤホヨロソクカミ}万^{カミ}神ニモル、事ナシ・是ヲノブル時ハ天地ニ

アマ子ク・是ヲ蔵^{ヲサム}ル寸ハ蜜ニカクルト云ベキカ・サ

レバ天地万物神道ニモル、事ナキガ故ニ・凡諸邦異域ノ教トイヘドモ是ヲ嫌フ事ナシ・只人々風土ノ様氣質ノ票ヲ知テ・各々其宜ニ叶テ・本心ノ神明ニ神樂ヲ奏シテ・天磐戸ヲヒラキテ・日神ノ明德天下ニ

13 赫々タラン事ヲ欲スルノミ・サテ神ハ・陰陽不測

ニシテ言語ノ及ブ所ニ非ズ・然シテ根元タレバ・根ハ陰蜜

ニシテ地中ニ有テアラハレズ・故ニ蜜法也・トホカミエミタ

メトイヘルホカハ上古ノ言句モナシ・然シテ天種子命大和姫命 雷大臣命常磐大連ナドノ神徳ニ

通ジテ其要道ヲ得テ是ヲ説玉フ・是モ又神明ノ託スルニ非スヤ・仍則神託宣トシテ用之其

12 後聖徳太子舍人親王・太安磨・大織冠鎌足

以來・卜部ノ家ノ古徳ナドノ・枝葉花實ノ三教

ノ文字言句ノ・我道ニ宜ク契フ所アルヲ以テ成ニ文章ニ而・以後世ニ教フ・是枝葉花實ヲ以テ

根元ノ徳ヲアラハス也異朝ニモ伏羲氏ノ

一文字ヨリ八卦トナリ・文王六十四卦トシ・周公ノ爻ノ辞ヲカケ・孔子ノ文言ヲ作り・帝堯ノ

11 允執其中ノ一勺ヨリ・後ニ四書六經ト成リ・末世

ニ及テ註釋解辭ノ繁多ナルガ如シ・是故ニ根元ノ神道ハ・文字言句ノ及ブ所ニ非ズ・天地ヲ一巻ノ書トシ・日月ヲ證明トシ万物ヲ文字トシテ可讀ト云ヘリ・

宗源神道ト云ハ宗トハ天地万物ノ始終・一本万殊ノ惣名・古ニ天地未レ部陰陽不レ分之時・已ニ今

10 日ノ天地万物出生スベキ妙所ヲフクメルハ神

徳也・此神徳ヲ宗ト申スベキカ・源トハ正ク

天地未レ割ノ大初・万法元始ノ一本・譬ヲ取テイハゞ宗トハ寛文元年ト申ス如ク・源トハ正

月元且ト申ス如クナルベキ乎・名法要集ノ宗源ノ下ニ云ク 元入ニ元初一本任ニ本心ト「云々」・

元トハ是宗也・源ハ大初タリトイヘトモ・己ニ始ト

9 云寸ハ終對スル故ニ二儀ニトル・宗ハ始終ニ

ワタラズシテ然モ始終ヲ兼・又是常住不變ノ

真理ナリ・故ニ此真理ハ言語文筆ノ及ブ所ニ非・

是ヲ以テ天地万物ノ命トス・天ハ是ヲ以テ天タリ・地ハ是ヲ以テ地タリ・人ハ是ヲ以テ人タリ・命内

獸虫魚草木金石・各々是宗ヲ以テ命トシテ・

各々其始終ヲナス・サレバ元ハ是宗也命也・是故

8 二他ノ事ハ何事モ言説ニコトハラレトモ・命ハ如何様ノ物トコトハル事ハ・聖ノ口上ニモ及バヌモノ也・如此言語ニヲチ又高上ノ元ナレバ・此元ハ天地阻隔善惡始終ニ渡ラズシテ・然モ兼レ之・兼

テ然モ其事ナシ・タトヘハ空ニハ水火ノ理アリトイヘト

モ・

水火トワカレヌユヘニ・アツカラズ・ヒヤ、カナラ子

バ・水ナ

ク火ナシ・然シテ兼タリ・兼テ然モ其事ナキモノ

7 也・如此元ナル故ニ・此元ガ則宗也・然ルニ此理ニ貫

通セヌ人ハ・物我ノ分ツヨク勝心擾々トシテ・人欲

ノ私ニヒカレテ・一本元々ノ理ニ通セズ・又一本ニカ、

ワリテ・万殊ノ理ニ通ゼザルモ・是元ニ通ゼザル也・

元ニ通ズルモノハ・元トスルモノ也・ハシメトシテハシメライル元ハシメノハシメニ初ハシメノハシメニ

トハ此元ニ契テ・元ト一致ニナルヲ云也・モトトシテモトラマカス本モトトシテモトラマカス本モトトシテモトラマカス心モトトシテモトラマカス一モトトシテモトラマカス

本ト云モ又本也・天ニアリテハ元ト云・人ニ受テハ

6 本ト云・天ノ元々ノ理ヲ受テ生レシ人ナレバ・元ヲ命

トシ元ヲ性トス・此元ニ通ズルハ則本トスル也・本

ノ心ニ任セタル也・此復性ト云如キカ・

神トハ真也信也伸也心也・訓儀ニ依テ云寸ハ

堅實也・上也・鏡ノ中ノ略也・鏡ハ虚冥不狹

ニシテ万事ニ應ズル物也・易云陰陽不測謂ニ之

神・觀卦云觀ニ天之神道ニ四時不レ忒・孟子曰聖

5 而不レ知謂ニ之神・此等ノ句・神道ノ神ノ字ニ

通ズベキカ・道ハ易云一陰一陽謂之道・此句

又神道ノ道ノ字ト通ズベシ・天地ノ理シバラ

ク次第ヲ立テ云寸人理氣陰陽五行万物

也・神道ハ天地未レ割混沌以前ノ妙理ヲ表

事ヲ以テ喻スナレバ・神書ノ文句ヲ質ニ渡レ

ル事ニ見テハアヤマルベキカ・此故ニ六根清淨

4 太極ニモ取レ説不レ可レ得ト云ヘリ・

本迹縁記ノ神道トハ・其社々々降臨勸請

ノ儀式ニ付・其々ノ一社々々ノ神徳ヲ明ス・故

ニ・社家傳來ノ神道トモ申スナリ・是又如レ此

ナラデ叶ハヌ理タルベキカ・サレトモ次第ヲ立テ

イハゞ・先元本宗源ノ神道・次ニ本迹縁記ノ

神道タルベキカ・

III

3 兩部習合ノ神道トハ・四大師顯密ノ奧義ヲ

極メテ・我神道ノ密意ヲ悟ル・故ニ佛法神道

理一ナル様ヲ示シテ・門從ニ殘ス・今ノ世ニ傳テ・兩

部習合ノ神道ト申スト「云々」・

2 影ハアミノ如シアミハ是ヨリ作り出セリ水ニ

自然ニ罔ノ象ヲナスヲ云カ

天ノ五星ノ精神 國狹槌尊ニサツチノミコトヨムノミコト豐斟淳尊ウヒチニテノミコト

泥土糞尊ツチノミコト沙土糞尊スヒチノミコト大戸道尊ヲホトノチノミコト大ヲホ

苦邊尊トマヘノミコト面足尊オモテノミコト惶根尊ヤシノミコトハ一德元水ニ

儀元火三生風木四殺元金五鬼元土ノ理也

地ノ五行ノ神ハ正シク一德元水ニ儀元火三生

(一行ミセケチ)

24 神道ノ教ヲタル、事・庸夫情識上ニ付テ教

ルニ非ズ・先ズ王臣ノ系圖ニ掛テ・天神地神ノ

本紀ヲ著シ・其中ニ天文地理ヲ示シテ明ラカ也・天

文地理ヲ示ス寸ハ・則人道ノ日用尋倫不レ言而

自ラ在レ其中一・

23 神ハ信也真也心也伸也陰陽不測中庸精

微ノ至誠也無レ聲无臭至哉レレカガ・故天地モ此神

德ヨリ出テ・人倫万物モ此神德ヨリ出ズト

云事ナシ・故ニ神ハ三才ノ祖也・是以天神地神

ヲ以テ・王臣ノ祖トス・正統ヲ以テ・帝王ノ祖トス・

庶流ヲ以テ・臣下ノ祖トス・末葉ヲ以テ万物ノ

祖トス・一生レニ生レ三三生レ万物ノ云也・是レ人ヲ

22 シテ天地万物皆以神ニ出ル事ヲ知ラシメテ・

各其神明ノ本主ニ復ラン事ヲ教フ・故ニ系譜

ヲ本トス・然シテ其所レ説ハ只天文地理・天文地

理ヲ説寸ハ・大極生ニ兩儀・兩儀生ニ万物ノ理顯

然タリ・故ニ其文則人倫日用尋倫之要道也・

國常立尊ヲ立テハ・天理ノ太極人倫ノ性ヲサ
トシ・國狹槌尊・豐斟淳尊・泥土糞尊・沙土糞

21 尊・大戸道尊・大苦邊尊・面足尊・惶根尊ヲ連
テ・一理ノ中ニ已ニ一德元水二儀元火三生風木

四殺元金五鬼元土ノ五行ノ理アル事ヲ示シ・

一性則仁義禮智信ノ五常ナル事ヲ教フ・伊

弤諾尊ヲ一氣ノ根本トシ・伊弤諾尊伊弤冊

尊ノ兩神ヲ以テ・一陰一陽ヲ云フ・於是五行ノ精

神木祖句迺迺馳尊火祖軻遇變智尊土祖

20 埴山姫尊・金祖金山彦尊・水祖岡象女

尊アル事ヲ云・五臟ノ精神天八下魂尊・天三

下魂尊・天合魂尊・天八百日魂尊・天八

十万日魂尊アル事ヲ云・而シテ天ノ五星地

ノ五行人ノ五臟ノ神德備ル・伊弤諾尊伊

弤冊尊ノ一陰一陽・五星五行五臟ノ精神

ヲ兼ルガ故ニ・此神ニ於テ乾坤二卦ノ理ヲ示

19 シ・或ヒハ乾兌二卦ノ理ヲ示シ・或ヒハ震巽二

卦ノ理ヲ示シ・或ヒハ坤艮二卦ノ理ヲ示ス・日

月星辰ノ理三才ノ依テ起ル所ノ天文ヲ

マビラカ也・地神第一代天照皇太神宮

ヨリ地神五代ノ神德・日月ノ運數ヲ以テ・

地理備リ・人倫其中ニ生ジテ日ノ正統タル

事ヲ明ス・其中ニ自ラ陰闇ヲ以テハ・人倫

17* ノ私心蔽塞ヲサトシ・陽明ヲ以テハ明々德

ノ要道ヲ示ス・鏡ヲ以テハ心ノ神明タル本

智ヲアラハシ・玉ヲ以テハ温潤和淑ノ仁德

ヲホメ・劔ヲ以テハ赫々タル大勇ニタトフ・其

天文地理ノ上ニ於テ人倫日用ノ教ヲ見ル寸

ハ・此道天理ノ至德要道ニシテ・造次搏攄是ニ

違肖スル事アルハ・神明ノ冥助ヲ不德シテ・荒

18* 神ノ罰罪ヲ受シ事照明タル事ヲ示ス・是故

ニ神書ヲ見ル事ハ先ヅ王臣ノ系譜ヲ本トス

是初重・天文地理ヲ見ル是二重・人倫日用

ノ至德要道ヲ見ル是三重・然シテ其要スル

所ハ國常立尊ニ神德ニ復ス是四重ナルベシ・

其餘ノ玄妙不測ノ深理ハ學人聰明聖

智ニ依ルベキカ・

137 天神第一代

クニトコタチノミコト

國常立尊

國トハ境大ナルヲ云・小ナルヲ邦ト

云・云心ハ物トシテ方境アラスト云

事ナシ・此限量ニ不_レ落前ハ理ナリ・落

ル所ハ氣質ナリ・理ハ未無數ナリ・氣

質二數有・然トモ其數八ツニ不_レ過・假令

132

ル・此時ハ物々一太極ノ理ヲ云・又國

底立尊トモ申奉ル・此尊ヨリ前二天

常立尊可美葦牙彦舅尊ト申スヲ立

ル説アリ・此説ハ學人ヲ國常立尊ニ

止ラセジノ爲ニ立ルカ・可美ハ讚美

ノ稱・葦牙トハ葦ノ未發以前ニ・水中

ニ葦ノ理ノアルニタトヘテ・此神德

131

見現以前・歷然タル理ヲ云カ・彦舅ハ

老翁ノ稱・常住不變ノ久シキニ譬フ

ルカ・

(図略)

133

國トハ大虚ノ一円相ヲ指ス・常ハ常

住不變・立ハ其中ニ玄々妙々ノ神德

ノ立テ有ヲ云・社ノ中ニ立ル・心ノ御

柱ハ此表也・天地万物一本万殊ノ惣

躰也・惣妙也・惣神也・此尊又ハ大元尊

神ト申奉ル・此時ハ天地万物ノ始ノ

元ヲ指テ云・又ハ天御中主尊ト申奉

134

常ハ經ナリ・庸ナリ・主ナリ・守ナリ

立ハ堅ナリ・成ナリ・置ナリ・建ナリ・云

コ、ロハ・此理ノ不變ニシテ・シカモ

立所アツテカタシ・主トスル所ナク

ンハ・何ゾヨク如_レ此ナランヤ・此德至

テ妙ニシテタツトキ物アリ・是ヲナ

ツケテ國常立尊ト申ス・

130 第二代

クニサツチノミコト

國狹槌尊

此尊者正シク天地未_レ割陰陽未_レ分之時

ノ神德ヲ指ス・然ニ第二代ト爲事者國常立尊

ハ始終ニ渡ラヌ故ニ・第一代ト云テ・無数ノ一也・國狹槌クニサツチノミコト尊ハ正シク元初ヲ指ス故ニ・終リニ對シテ・對々ノ理ヲ兼ヌル故ニ・第二代ト

129

スト見エタリ・國トハ浩々タル大虚一円相狹サ槌トハ・槌者健也・健ヲハサム心也・☰ノ象也・一徳元水ノ理ノ神徳也・又國狹立トモ申奉ル・浩々タル太虚ハイヅクカライツクマデモスキトヤル故ニ・

水ノ象ニトル・

第三代

豊斟淳尊トヨクシノスミコト

128

此尊ハ渾沌ノミコト如鷄子ハロカレタルコト一溟涔トリノコクモホクアフリキセシヤ含レ牙時ノ神徳ヲ指ス・澄渡リタル大虚ノ中ニ含レ牙ハ・☱ノ象也・スミミワフ、ムキヤシヤ

ミ
ワタル中ニ・芽シノ出來タルハ・陽中ノ陰ノ心也・二儀

元火ノ神徳也・一徳元水ノ中ニ・二儀元火ノ理出來ルハ・漏理也・斟理ナリ・故ニ斟淳ト申奉ル・豊ハ讚美ノ辭・淳ト云ハ此芽ガ國土トナトルヘキ始ナレバナリ・此尊又ハ豊國主尊ト申シトヨクニヌシノミコト

217

奉ル・一徳元水ノ中ニ二儀元火ノ理出來ルハ主ノ理ナル故カ豊組野尊トヨクミノミコト是ヨリ囊籥タケヤクノ理ヲコル故ニ組ト云・野ハニシテ一ノ音律也・ノ、出葉テニハヲ中へ入ル、寸ハ・物ト物トヲ合スルナリ・又ハ浮經野豊買尊ウキフノトヨカヒノミコトト申ス・一徳元水ノ中ニ二儀元火ノ理ノ浮ルナリ・買フハ取カハス理也・豊習野尊トヨクヒノミコト習モ囊籥理也

126

葉木國野尊ハコクニノミコト 天地一円相ノ中・皆以仁ナリ・仁ハ木徳也・此故ニ惣天地ヲ木徳ニ取テ云・葉ハ天

地ノ中ニ・世男々々ノアルヲ云カ・二儀元火ノ理出來ルハ・世男ノ初ナル故也・

見野尊ミノミコト 一徳元水ノ時ハ・浩々タル大虚ニテ・神徳モ妙モ未見・二儀元火ノ理ヨリ神徳ノ妙ヲ見付ルホトニ・見現ヲ指テ申ト見エタリ・以

125

上豊斟淳尊ノ御別名也・

第四代

泥土糞尊ウチチニノミコト 沙土糞尊スヒチニノミコト 「俱生神」

三生風木ノ神也・俱生ナルトモ未誓合ナシト云ヘリ・震巽ノ二卦ノ如シ・一徳元水ノ中ニ・二儀

元火出來テ動ク理アルハ・動クハ風輪ノ始也・此時ハタトヘハ漿ノワキ上ルガ如キ理ナレハ・泥土ツチ

124 糞沙ニスヒチニ土チ糞ト申奉ル・此ワキ上ル物終ニ國土トナルヘキ故ニ・此時ニ早泥沙ハヤノ名ヲ申スカ・又ハ泥ウレ土根チネ尊沙土根尊トモ申ス

第五代

大戸道尊 大苦邊尊 「俱生神」

乾充ノ二卦ノ如シ・未婚合ノ儀ナシ・四殺元金ノ神徳也三生風木ノ理出未ヨリ風ハ物ヲ

123 フキ分ル理ナル故ニ・天地ノ内ニ経絡ノ出未ル也・天地ノ経絡ハ道也・道ノ始メハ夫婦室家ノ理也・故ニ

大戸道尊 大苦邊尊ト申奉ル・苦ハ舟ヲ葦物ナレハ・世界ヲ舟ニタトヘテ・室家ノ理ニ取テ

云カ・又大戸摩彦尊・大戸摩姫尊トモ申ス・又大富道尊 大富邊尊トモ申ス・富ト云モ室家

ノ理ナリ・

122 第十六代

面足尊 惶根尊 「俱生神」

四殺元金ノカタマル理アルヨリ物ノ質ノ理ナリ・質ハ則土ノ理ナレバ・五鬼元土ノ神徳ナリ・面足ハ男女ノ面足也・惶根ハ男女ノ根足也・此

二神坤艮ノ二卦ノ如シ・又吾屋惶根尊トモ・忌檀城尊トモ・青檀城根尊トモ・吾屋檀城

121 尊トモ申奉ル・男女面足・根備ハリ・室家成就ノ理ヲ云カ・

第七代

伊弉諾尊 伊弉册尊 「俱生神」

婚合ノ始・上國常立尊ハ大極・次ノ五代ハ一理ノ中ニ已ニ五行ノ理ヲ含ム事ヲ云ヒ・伊弉諾尊

ハ正シク一氣ノ源ヲ云・二神ニシテハ正シク一陰一陽

120 ヲ云・イサナハ唱也・陰陽ハ常ニイザナフ故ニ云・

キハ氣陽神・ミハ質陰神・合セテ云寸ハ君ノ訓也又ナキハ風・ナミハ水・是万物ノ陰陽也・此二神

上ノ五神ノ神徳ヲ兼テ・五行万物ヲ生シ玉フ・天御中主尊 高皇產靈尊 神皇產靈

尊 此三神ハ天御中主尊ハ・物々一太極ノ理ヲ申シ・高皇產靈尊ハ・高皇ハ讚美ノ辞・

119 産靈ムスビハ生氣ヲ云万物ヲ生スル氣ノ天ニアルナ
ルヘシ・神皇産靈尊カミミムスヒノミコトハ・神皇ハ讚美ノ辞マサ・正シ
ク万物ノ生氣ニテマスマスヘキカ・

至テ尊キヲハ尊ト申シ・次ヲ命ト申ス・二ツ共

ニ・ミコト、訓ス・ミコト、ハ御事也・日本人ヲ尊
テ・御事ト云フ・是此ノ風俗也・

日神・又ハ大日靈貴尊ト申シ又天照太神ト
アマテラスヲホムカミ

118 申シ・又天照太日靈貴尊ト申ス・
ヒシキヤツ

畢竟日天ノ德ヲ申シ奉ル・此神地神第一代日
ヒメヲホムカミ

ノ神ト申シ・姫大神ト申ス・此神ハ子ノ宮ノ日
ネ

ノ德ニ取テ云カ・此故ニ子ノ宮ノ日ハ地ノ下ニア
メ

リテ日ノ芽也・故ヒメト云・メハ草木ノ芽ヲ目ト
カ

云如キカ・子ノ刻ハ一日ニシテハ夜・一年ニシテハ冬
カ

ナル故

ニ・陰分三取テ女体トシ此理ヲ以テ・女ノ称ヲヒメ

117 ト云フ・人事ニ掛テ申ス寸ハ・心ココロヲホムカミナリ
ツキノカミ

月神ハ・月弓ツキノユリ尊ハ上絃ノ月ヲ申シ・月夜見尊ツキヨミ円
ツキノミ

満ノ月ヲ申シ・月讀ツキヨミ尊トハ晦日ミヅカノ月ヲ申シ

奉ル・

蛭兒ヒルコハ西宮大神宮也・海ノ主ナリ・坎ノ中タノ

理也・蛭ヒルハ水ノ灵・児ハ微妙ノ称也・
ツサノフノミコト
素盞雄尊

116 祇園牛頭天王也・下界ノ主ナリ・素盞ハ
進也・太早計ノ理也・又鷄ノ名也・此神ヲ・蒼

生ノ惡ノ始ニトルナリ・
地之五行之神

木祖キノミコト句々クク・迺智命ニノチノミコト

草祖クサノミコト草野クサノノ姫命ヒメノミコト 文字理明ラケシ・

火祖ヒノミコト軻カ偶ウ突ツ智命チノミコト

115 カグハカガムルト同シ・物カグメレバ・中ニアタ、マ
リ出来ルナリ・ツチハ槌也・健ノ称也・

土相ツチノミコト垣安命カネノミコト

垣文字理明ラケシ・安ハ安靜ノ義ナリ・

金祖カネノミコト金山彦命カネノヤマノヒコノミコト 文字理明ラケシ

水祖ミヅノミコト罔象女命ミヅノミコト

異朝ニモ水神ヲ罔象ト云水ノ浪ニ日ノアタル

影ハアミノ如シアミハ是ヨリ作り出セリ・水ニ

114 自然二罔ノ象ヲナスヲ云カ

天ノ五星ノ精神クニサツチノミコト 國狹クニサツチノミコト槌尊ツチノミコト 豊斟トヨクムスノミコト淳尊ツチノミコト

天ノ五星ノ精神クニサツチノミコト 國狹クニサツチノミコト槌尊ツチノミコト 豊斟トヨクムスノミコト淳尊ツチノミコト

ウヒチチニフミコト 泥土奠尊 砂土奠尊 大戸道尊 大

トマノミコト 苦邊尊 面足尊 惶根尊ハ一徳元水二

儀元火三生風木四殺元金五鬼元土ノ理也・

地ノ五行ノ神ハ正シク一徳元水二儀元火三生

113 風木四殺元金五鬼元土也

人ノ五行ノ神

アノヤツクリムスヒノミコト 天八下靈寃命

天ハ理ノ云ヒ・八ハ八卦万物ノ惣数也・是ヲ一ニシテ

兼備スル者ハ神也・信也信ハ方角ニシテハ中央ニ

取・五行ニシテハ土ニ取・此理ノ下リテ人ニ加ハル

ヲ・天八

下灵寃ト申ス・地大輪脾胃ノ精神也・

112 天三下灵寃命

天ハ理ノ云也・大虚一徳元水ノ一円相ヲ指シテ・天

三ト云・円相ノ物ハ・何方ヨリモ三角ニアタルナ

リ・三角ノヨレル物也・依テ一徳元水一円相ノ理

ノ人ニ下リ加ルヲ・天三下灵寃命ト申ス・水大

輪腎臟ノ精神・

アマヒタスヒノミコト 天合灵寃命

111 天ハ理ノ云也・一徳元水ノ中ニ二儀元火出未テ妙

合囊籥ノ理ヲコルハ天合ナルヘシ・此理ノ人ニ

下リ加ハルヲ・天合灵寃命ト申ス・火大輪ノ

心臓ノ精神

天八百日灵寃命

風木輪肝臟ノ精神也・風輪ハ始テ物ヲ

吹分ル故ニ八百日灵寃ト申ス・八方八卦八風ノ

110 極数・日ハ物各々分ツトイヘトモ・皆日神ノ徳ヲ

受ルヲ云フ・

アマノヤツヨロツヒムスヒノミコト 天八十万日灵寃命

空大輪肺臟ノ精神也・空八万物ノ理ヲ兼備

スル故ニ・八十万ト・万物ノ極数ヲ云フ・此五神

ハ人ノ五行・五臟ノ精神ナル故ニ・何レモ靈寃命

ト申ス・

109 稚産灵命

万物ノ生氣ヲ云カ・稚ハ微弱之称・

アマノヨサヲノミコト 天吉葛命

是神ハ・蓋天ノ黄道赤道ナドノ数ヲ云カ・

シノカツヒノミコト 級長津彦命 級長戸邊命

風神也・シハ風輪音律也・故ニ地虫ナドハシ・

トナクナリ・此地中ノ風輪ヲ吹出セル寸ハ・世男ノ

108 風ナリ・彦ハ男ノ称・戸邊ハ土口ノ称也・風輪ノ

俱神・古抄ニ云級長者・猶言息氣長也・

蒼稻冤命

蒼生長養ノ神也・稻荷大明神也・稻ノ精灵ト

云心カ・

暗澤女神

露ノ精神ヲ云・露ハ秋ヲ正トス・秋ハ哀傷ノ時

107 也・故ニ啼ト云澤ハ濕ノ心・女ハ陰物ノ称・

甕速日神

甕ハ中ニ元火ヲ生スル物ナリ・チ、充中ニアタ

、マリノ出耒ルト同シ・速日ハ其元火ノ称也・

熯速日神 火ノ称也

武甕槌神 甕ノ中ノ健ナリ・火ノ称也・鹿嶋大

明神也星ノ神也

106 経津主神 【武甕槌ノ精气甕ヲ経テ成就ヲ申奉ルカ星

ノ神・香取大明神也】

岩裂神 根裂神

岩ハ堅固ノ称・裂ハ火徳ノ熯破ル、精ヲ云・裂ノ

俱神

岩筒男神 岩筒女神

岩ハ堅固ノ称・筒ト云毛甕ノ如ク・筒アレハ中ニ元
火生ス・俱神

105

天書曰・経津主神者・天之鎮神也・其先

出白 諾 尊・初諾尊 温突 血成 赤露・天

下陰闇直達 天漠 化為三百六十五度

七百八十三磐 是謂星度之精 也氣化

爲レ神号曰 磐裂 是謂 三歲星之精 裂生 三根

去 是謂 災惑之精 去生 磐筒男 是謂 太

白之精 男生 磐筒女 是謂 辰星之精 女

104

生 経津主 是謂 鎮星之精 故曰 天安河

磐石 則 経津主 神之祖也 天書曰 武

甕槌者 天之進神也 其先出自 凌威雄

走 昔有 天閻霧 方四里許 其中有 二速日

熯生 武甕槌

道祖神 道路ヲ司ル神也

招魂ノ祭リノ神也・死ノ道ヲカヘス心也

103 菊理姫命

加州白山妙理大権現也・良ノ卦ノ心カ・良ハ

万物ノ始終也・万事万物ノク、リノ神也・菊花

ハ中央ノ葉千乗ラク、リタル花也・深甚ノ理ア

ルベシ・

八十枉津日神

八十八万物ノ物数・枉津ハマグル也・私心ノ己ヲ・万

102 事ニマゲテ・天理ニシタガフヲ云カ・日ハ日神ノ徳ニ

契フヲ云・

神直日神 正直ノ精神也・

大直日神

正変共ニ理ニ契フテ・至誠ナルノ精神也・

是三神ハ・人心ニアル日神ノ三徳也・御祓ノ神也

底筒神 夜半地下ニ在ス日ノ徳也

101 表筒神 日ノ高く出現マシマス時ノ徳也

中筒神 日ノ西ニマシマス時ノ徳也

是三神ハ天ニ在ス日神ノ三徳也住吉大明神也

此神ノ徳ニ依テ天地万物ノ生々相継万事ヲ

成故此三神ニハ深甚ノ秘決傳受有之

底津海少童神

表津海少童神

100 中津海少童神

是三神ハ・日入ニ海中ニテ徳ヲアラハシ玉フニ三神

也・底表中海中ノ底表中也・筑前國糟屋

郡志加明神也・

大山祇神

山ノ神也・祇ハ積也・塵積爲山ノ・古語高キ

山モチリヒチヨリヲコルト「云々」伊豆國三嶋

99 大明神也

大雷神

火雷神 加茂大明神也

土雷神

稚雷神

黒雷神

山雷神

98 野雷神

裂雷神 神楽岡大明神也

以上八雷神ハ・八方八風・生氣震フ精神也・

保食神 衣食ノ精神也

東方青帝青龍王・歳星也・木徳主レ春蒼

帝之子・人之象・五星之長・司農之官・主

福度^{フクド}・凡有^{ソリ}六名^ノ・一日^{ニハク}攝提^ト二日^{ニハク}重華^ト・三

98 曰^ク應星^ト・四曰^ク經星^ト・五曰^ク紀星^ト・六曰^ク修人

星^ニ其^レ於^テ五常^ニ仁也^{ナリ}・於^レ人主^ニ盍^ヲ・凡歲星觀^ニ

察三才^ヲ・以^テ進^ニ退^ヲ・煩^ニ逆^ヲ・決^ス定^ス天下^ノ理也^{ナリ}・歲

星其明^レ如^レ常^ト則^チ・五穀^ニ滋^シ盛^ス・國家^ニ安^シ寧^ス・民

間^ニ有^ル福應^ト・主^ル歲^ニ故^ニ名^ス歲星^ト也^{ナリ}・

田心^ノ姫^ノ 本心^ノ田地^ノ心カ[・]筑前國^ノ胸肩^ノ明神也^{ナリ}

湍津姫

96 湍ハ流水ノ至リテ速ニシテ滯ナキ物也・智水ノ流レ

ノ滯リナキヲ云カ宇佐明神也

市杵嶋姫

市ハ物ヲ取替テ用ヲ達スルノ云・變ニ叶フテ時

ニ中スル理ヲ云カ杵ハ徒ノ云也・安藝嚴嶋

明神也

正哉吾勝^ク速^ク日^ク天^ク忍^ク穗^ク耳^ク尊^ト

95 此御神ハ素盞雄尊神性タケケイブリニ

マシノテ常ニ哭泣玉フ故ニ伊弉諾尊・イマシ

何故ニカクナクヤト問玉ヘハ・母ノ尊ノ根國ニ

從ハントヲモフトノ玉フ故ニ・然ラバ根國ヘ行玉

ヘトノタマヘバ・天ヲドヨモシ地ヲドヨモシテ・天ニ

昇^リ玉フトキ姉ノ尊弟^ノ尊ノマシマス事[・]ヨキ心ニ

アラジトテ・丈夫ノスガタニナリ玉ヒ・弭彌ヲフリタ

テ・

94

劍柄ヲ急握^テ奮^ニ稜威^ノ之^ノ雄^ト話^ニ發^ス稜威^ノ之^ノ噴^ス

讓^ニ而^シ徑^ニ詰^ス問^フ玉フ素盞雄尊^ノ對^シ曰^ク吾^レ元^ノ無^シ

黒心^ニ但^シ父^ト已^ニ有^ル嚴^ト勅^ス將^シ永^ク就^ス乎^ト

根國[・]如^シ相^見吾^レ何^レ能^ク敢^テ去^ル是^レ以^テ跋^シ涉^ス雲

霧^ニ遠^ク自^ラ來^テ參^ル不^レ意^ト阿^ノ姉^ノ翻^テ起^リ嚴^ト顔^ニ于^テ時

天照大神^ノ復^テ問^フ曰^ク若^シ然^ル者^ノ將^シ何^レ以^テ明^ス爾^ノ

之^ノ赤心也^ト對^シ曰^ク請^フ與^テ姉^ト共^ク誓^ス夫^ノ誓約^ノ之

93

中^ニ必^ズ當^ル生^ル子^ト如^シ吾^レ所^レ生^ル是^レ女^者者[・]則^チ可^ク以^テ

爲^ス有^ル濁^ル心^ト若^シ是^レ男^者者[・]則^チ可^ク以^テ爲^ス有^ル清^ル心^ト・

於是[・]天照大神^ノ乃^チ索^フ取^ル素盞雄尊^ノ十握^ヲ

劍^ヲ・打^テ折^ル爲^ス二三^ノ段^ト濯^ル於^テ天^ノ真^ノ名^ノ井^ニ・ 皓^ク然^ト咀^ク

嚼^ク而^シ吹^ク棄^ク氣^ヲ噴^ク之^ノ徠^ル霧^ヲ所^レ生^ル神^ト號^シ而^シ曰^ク

田心^ノ姫[・]次^ノ湍津姫[・]次^ノ市杵嶋姫[・]凡^ソ三^ノ女^ト

矣[・]既^ニ而^シ素^ク淺^ク鳴^ク尊[・]乞^フ取^ル天照大神^ノ髻^ヲ鬘^ヲ

ヲヨビテサニセルマヤヤガガニノイホツノミスマルヲリス、キ
 及腕所レ纏八坂瓊之五百箇御統一濯於
 アマノナナカミニ サカミニ
 天真名井・ 鮎然咀嚼而吹棄氣噴之狻
 キリウマルカミヲ ナツケテイワ マサヤアカツカツハビアマノヲシ
 霧所生神・ 號曰正哉吾勝々速日天忍
 ホニミノミコト ツキニアマンホヒノミコト ツキアマツヒコネノコト ツキニ
 穗耳尊・ 次天穗日命・ 次天津彦根命・ 次
 イクツヒコネノミコト ツキニクマノクスヒミコト スヘテイツハシラノヒコカミ
 活津彦根命・ 次熊野櫛日命・ 凡五男
 マス アフトキマテラスヲホウカミミコトノリシハク タツツニソフサホツ
 矣・ 是時天照大神勅曰・ 原二其物根一・ 則
 ハヤ
 坂瓊之五百箇御統者是吾物也・ 故彼
 サカニノイホツミスマルハコレガモノナリ カソソノ

イツハシラノヒコカミコトノクコレカコトノ正哉吾勝々速日天忍ノミコトノ
 ノ玉ツノトツカノツルキハコレツサノヲノミコトノモノナリ カレコト
 曰其十握劍者是素盞鳴尊物也・ 故此
 ミハシラヒミガミコトノクコレイマツカコナリト スナチサツケテフツサノヲノミコトニ
 三女神 悉是爾兒・ 便授之素盞鳴尊・ 此
 スナハチツシノムナカヲノキミヲガイウキマツルカミコレリ
 則筑紫胸肩君等所祭神是也「云々」此
 時素盞雄尊ノ正哉吾勝々トノ玉ヒシニヨリテ・
 マサカアハカツカツ
 正哉吾勝々ト申ス・ 速日トハ日神ノ御子ト
 ハヤヒ
 ナシ玉ヒテ地神二代トナシ玉フニ依テ云也・ 天ハ
 アメ
 讚美ノ辞・ 又尊重ノ辞・ 又ハ天理ノ云ヒ也・ 忍穂
 ヲシホ
 耳ノ尊ノ字・ 又ハ忍踏トモ書之・ 忍ハ任ノ心・ 踏ハ天
 シラフ
 位ヲ踏ノ心・ 地神五代ヲ・ 日ノ德ニアテ、申ス
 寸ハ・ 第一代ハ子ノ宮ノ日・ 此時ハ日地下ニ在ス故
 メナリ
 二日ノ芽也・ 故姫太神ト申シ・ 子ノ時ハ夜ナル
 ニヒメホムカミ

故ニ陰分ニ取テ女体トスト見エタリ・ 一年ニ取テハ
 冬至一陽來復ナルベシ・ 二代忍踏尊ハ丑ノ
 ヲシワシノミコト

宮ノ日ノ德カ・ 故ニ天降りマサント催マシマス・ 夜明
 トナシ
 シテ未レ明ノ象カ・ 爰ニ深々ノ工夫傳受アリト見
 エタリ・ 去年ノ三伏ノ流火・ 艮山ノ中ニ伏シテ・ 北
 ノ坎水ニ千ナム寸・ 坎ノ中爻ノ陽起リテ・ 隆ンニ
 未復スル理アリト見タリ・ 睽ノ卦ノ・ 初九ト考
 合セテ工夫アルヘキカ
 アマンホヒノミコト
 天穗日命

日天ノ氣ノ・ 天地万物ニ及ブラ申ス・ 穗日ハ日ノ
 ホヒ
 穗ト申ス心カ・
 アマツヒコネノミコト
 天津彦根命
 日天ノ徒ノ德ヲ申・ 天津ハ讚美ノ称・ 彦根ハ
 ヒコネ
 健ノ称也・
 イクツヒコネノミコト
 活津彦根命
 日天ノ氣ヲ受テ・ 万物ノ活スル精ヲ申シ奉

ルカ
 クマノク スヒノミコト
 熊野櫛日命

クマハ陰聞ノ称・物ノカクル、処ラクマ^トノナト云
類・クスハクスブノ同音・熏^クノ心カ・夜隱ノ闇^キニ日
出テ朝霞ナドノ体ハ・火ノクスブノ類ナル故ニ・
如^クレ此理ノ精ヲ申カ・
已上ノ四神吾勝尊ト同中ノ異ナルベシ・

86 羽明玉命

此神ハ進雄尊ニ玉ヲ奉リシ神也・日出ノ光リ

坤ニ及フ精ヲ申スカ・

思兼神 思惟工夫ノ精神也・

天兒屋根尊

天トハ理ノ云・兒ハ父子ノ理・屋ハ夫婦ノ云ヒ・根

ハ根本ノ云・然ラバ父子夫婦人道尋倫ノ根

85 本ト云心カ・是又三德ニ取テハ・智ノ精神也・

天太玉命

天ハ理ノ云ヒ・太玉ハ温潤ノ云・三德ニ取テハ仁

ノ精神也・

天手力雄命

天手力雄命

鈿女ハ女ノ称・此神ハ・人心是危・道心是微也ト

84 云・道ノ心ヲ云フカ・太凡姫神ノ類ハ・天照太神ト

一德也・道ノ心ノ微ニシテ・内心ニ有ルヲ云・

天糟戸神

神鏡ヲ作ル神也・蓋鏡ハ日神ノ德ヲ表ス・神德

發明ノ以前ニ・先ヅ日神ノ德ニ從テ・事理共ニ

契フニ・日神ノ德ヲカミル也・如^クレ此理ヲ云カ・然

ラバ・

如此日神ノ德ヲカミルヨリ・終ニ日神ノ德ニ

83 契フベケレバ・此時實ノ德ヲアラハス也・糠ハ實ヲ

出ス処ナレバ・如此号スルカ・

石凝姥神

同鏡ヲ作ル神也・石凝ハ堅固ノ称・姥ハ老婆ノ

称也・老婆ハ兒孫ヲ教フル事深切也・深切ノ教

ノ称也・深切ノ教ニ依テ・日神ノ德ニカナフベケレ

ハ・

如^レ此号スルカ・

82 脚摩乳 手摩乳

素盞雄尊ノ妃稻田姫ノ父母也・脚摩手摩ハ

伸ハ称・乳ハ長養ノ称也・道德ヲ養テ・アナタノシノ

神樂ニ叶フベキヲ云

奇稲田姫イナタケヒメ

奇ハ奇妙ノ称讚美ノ辞・稲田イナタハ本心ノ田地ニタ

トフ・本心ヲ田地ニタトフル事アリ・素盞雄尊ソサノヲノミコト稲

81 田姫タヒメト契リ玉フト云ハ・悪ニコリテ善ニラモムキ

本心ニ契フ心カ・

簀狭八耳神スサハヤミノカミ

稲田姫ノ御親ノ別名也・簀狭スサハ如ニ文字シ一大凡

筒ツツト云甕ミカト云簀スト云ノ類ハ・中ニ氣湛テ元

火ヲ生ズ・今空中ニモ一德元水ノ中ニ元火ヲ生シテ

ヨリ万事ノ妙アラハル・然レハ神徳ノ妙ノアラハ

80 ルベキノ称也・八耳ヤツミハ惣明ノ称・八ツハ万物ノ惣数

ナレバ・耳ニ入トシテ心ニ通セスト云事ナキノ称也・

天葺根神アマノフキネノカミ

天ハ理ノ云ヒ・葺ト云ハ茅ヲ以テ葺ヲ本トス・是ハ

能微細ノ草ヲアツメテ一致ニスル事也・然レバ

万事万物ノ理ニ貫通シテ・天理ト一致ニナルノ

云ヒカ・根ネハ根本ノ心・此神八十握トツカノ劔ツルギヲ以テ天照アマテラス

79 太神ヲホカミニ奉ラル、ノ・使ヒノ神也・然レハ万念ニ渡ル

放心ヲ裁断シテ・一徳ニ帰スル神号也・

五十猛神イソツタケルノカミ

五十八五行ノ満数猛ハ・勇也勇猛ノ精神儀

氣ノ神也・

太國主神ヲホクニスシノカミ

大地ノ精神也義如文字・

78 大物主神ヲホモノノスシノカミ

地ヨリ万物ヲ生ズル・万物ノ主ト云心カ・

大己貴命ヲホナムチノカミ

地ノ精神也・地ハ天ニ依テ成リ・天ハ地ニ依テナル・

葦原醜男アシハラウシノヲ

サレバ此神徳ヨリ又天理ヲナス故ニ・己貴ト申スカ・

葦原ハ・世界ノ称・醜男ハ義廉嚴恭忿怒ノ

77 兒・勇ノ称・佛ノ不動明王ナドノ義ト同シキカ

大國玉神ヲホニタマノカミ 大國主ノ義ノ如シ・

顕國玉神ウツシメニタマノカミ 同上

已上七ツ大己貴神ノ御別名・

少彦名命スナヒコナミコト

少ハ微妙ノ称・彦ハ健徳ノ称・此神ハ凡情ノ中

ニ・ワヅカニ道ノ心ノ發見ノ理ノ精神カ・

76 事代主神コトシロノカミ

大物主ト申スト同ジ義カ・万事ノ事ノ主ト申

ス心カ・

溝織ミヅクワイ姫ヒメ

溝織共ニ傍示ノ云也・万事ノ是非邪正ヲワ

カツノ精神カ・地ノ徳ノ万物ニ渡ル始ヲ申スカ

姫ヒメ踏フミ躰タテ五十鈴イソ姫ヒメ命ミコト

75

踏フミ躰タテハ囊籥ノ云ヒ・五十八五行ノ満数・鈴スズハ生

氣ノ称・陰陽ノ囊籥ニテ万物ヲ生長スルノ理・

至哉坤元万物資而成ノ心・此神人王第一

代神武天皇ノ后也・

74 栲幡タケハタ千々チチ姫ヒメ命ミコト

栲タケハ猶レ言レ操サツ也千尋チヒロクサ栲タケ繩ヒトナト云類也・幡ハタハ天ノ

灵・物ヲ引物也・人数ヲ幡ニテ引ガ如シ栲タケト云・

幡ト云・皆以氣ヲ引類也・千々チチハ万物ト云ガ如

シ万物ノ氣ヲ引テ司ル也・造化ノ万物ヲ生ズル

精氣ノ神ト云心カ・高皇産灵タカミヤスミノ御娘ニシテマサヤ・正哉アツク

吾勝々アツク速日ハヤヒ天忍穗耳尊アマノヲシホミノ妃也・其所以ユヘ

73

ヲ考ルニ・忍穗耳尊ヲシホミハ地神二代ノ神也・今日

ニ取テ云ハハ・丑ウシノ宮キウマシマニ在ス日ノ徳ヲ云カ・然レバ

此時日昇キ、故ニ・地上ニハ光アタラズト云ヘトモ・

其

氣天ニ及テ・天ノ諸星ノ氣ヲ繼グ故ニ・天神

ノ御娘ミムスメ栲幡タケハタ千々チチ姫ヒメヲ妃トシ玉フト云カ・

天津彦アマツヒコ彦ヒコ々ニ火瓊ヒロク々ク杵尊キリミコト

天津アマツハ理ノ称・又尊重ノ辞・彦ヒコ々クハ男子ノ美称・

72

健徳ヲ讚美ノ云・火ヒハ日ノ徳・瓊ニ々クハ温潤ノ云

ヒ・杵キハ又徒ニシテ恭シキノ称・畢竟日ノ徳ヲ申

カ・此神ハ地神第三ノ主・天照太神タカミミムスト高皇産

灵ヒノミコト尊トトノ御孫也・今日ノ上ニ取テ云ハハ・寅宮トウキウニ

初テ出現ノ日ノ徳ヲ申カ・此故ニ此神ヲ初テ

天上ヨリ降臨ト申シ・平旦日出ノ光リハ高ク

山上ヲ照ス故ニ・日向ヒウカノ高千穗タカチホノダケ峯タマツクニ天降り

71

玉フト申シ・此時ハ日天ノ徳山ノ峯ニ輝テ山ノ

万物ノ生氣ヲ催ス故ニ・山ノ神ノ娘コノメ木花

開耶サカヤ姫ヒメヲ妃トシ玉フト申スカ・人事ニ掛テ云

ハハ本心撥見シテ・擾々タル私心ノ邪惑ノ退

ク時ヲ云カ・

天稚彦アメワカヒコ神ノカミ

此神八日出以前ニ先陽氣已ニ世界ニ催ス位ヲ

71

云カ・此故ニ天稚彦ト云・此神ハ瓊々杵尊ニ、サノミコト
降臨ノ前ニ・天上ヨリ下界ヘ御使トシテ降り玉タマフ
ニ・下男ノ主顯國玉ノ娘下照姫ヲ娶テ・國津クニツ
神ニヲモ子リテ・返リ事申サズト有レ之・夜ノ丑ウシ
ノ刻ノ時分・夜闇ニ陽氣催ス故ニ・弥陰氣力
ヲ得テ・還テ・闇ク寒ク成ル位ノ精神ヲ申ス
カ・

69
下照姫

此神八日ノ地下ニ在ス寸大地ヲ透テ・日ノ徳ノ
地上ニ及ブラ申スカ・此故ニ天稚彦ト・一氣ナル故
ニ夫婦ト申ス也・此精氣天ニ上リテ星ノ氣ヲツ
グ故ニ・後ニ天上シテ織女トナリ玉フ様ニシルセリ・
味秬アデスキカヒネノカミ高彦根神
味秬トハ・秬ノ理ト云ガ如シ・高彦ハ男子ノ美

68

称根ハ根本ノ云ヒ・農業ノ神牽牛ヲ申スカ・
鹿葦津姫カアシツヒメ
瓊々杵尊ノ妃又ハ木花開耶姫ト申ス・鹿ハ天
ノ象ニテ皮ニ二十八宿ノ紋ヲ備フ・葦ハ地ノ象・

泥土ノ初ハ先ツ葦生ズルモノ也・外ノ草木ハ地
ヨリ真出テ・葉生ズ・葦ハ直ニ地ヨリ葉生ズル

故ニ・地ノ葉也・故ニ地ノ象ニ取ル・猶口決有リト
「云々」

67

故ニ本心ノ田地ヨリ・直ニ出ル正念ニ比シテ清淨ノ
草トス・故ニ吉祥草トモ云ヘリ・然レバ・鹿葦ハ
天地ノ象・津ハアツムル義也・平旦日出ノ時ハ
天地万物ニ日ノ徳加リ因故ニ・鹿葦津姫
ヲ妃トスト申スカ・

木花開耶姫ト申ス寸ハ・平旦日出光リハ・高
ク山頂ニウツル故ニ・山ニ因ム・然レバ天ニ因ンデ

66

草木ノ精氣ヲ成ス故ニ申スカ・又ハ天地ノ内
生氣ハ仁也木徳也・然レバ万物ノ精氣ハ春
ノ洩氣ニテ・草木ノ花ヲ催ス如クナレバ・万物
ノ生氣ニ掛テモ・木花開耶姫トモ申スベキカ・
磐長姫イハナカヒメ

磐ハ堅固ノ称・長ハ長久無窮ノ称也・木花開耶
姫ノ姉・山神ノ御娘也・初火瓊々杵尊・一人

65

ノ美人ヲ見玉ヒテ曰ク・汝ハ誰ノ神ノ子ゾト問

玉フ時ニ美人對テ申サク・山祇神ノ娘吾田鹿
 葦津姫・亦ノ名ハ木花開耶姫ト申ス・亦吾姉
 磐長姫在下申ス瓊々杵尊曰ク・以レ汝爲レ妻
 如何ト・美人對申サク妾ガ父大山祇神ニ向玉ヘ
 ト申ス・依テ大山祇神二問玉ヘバ・則二人ノ女ヲ
 奉ル・瓊々杵尊・姉ハ睨ト思食テ・妹ヲ幸ス・

一夜ニシテ有身・姉磐長姫大ニ慙テ詛テ申サク・
 妾ヲ幸サバ・生兒永專常磐堅磐ニヲハシマ
 サンニ・妹ヲ幸スヨリハ・其生兒ハ木花ノ如ク移
 落ン・此人代ノ短命縁也ト「云々」・此理ヲ考ル
 ニ・草木ノ芽シ其初二甲ヲ蒙ル・是姉ノ磐長
 姫也・醜シトイヘトモ甲ヲ蒙ル寸ハ生氣ヲ長養
 スル故ニ千秋万歳ノ理ヲ含ム・然レドモ實ヲ

生ズベキニ非レバ天孫ヲ生奉ルベキ果報ナシ・木
 花ノ開ヨリ實ハ生ズレバ・妹木花開耶姫ニハ天
 孫ヲ生奉ルベキ果報アリ・是ヲ以テ・万物未生
 ニシテ甲ノ時ハ・万歳ノ理ヲ含ミ・已ニ出生スルヨ
 リハ・帰元ノ理ヲ兼ルヲ云カ・初九ノ潜龍ハ勿
 レ用磐長姫ヲ妃トセザル也・上九ハ六龍有レ悔木

飛龍ノ天孫ヲ生奉ルカ
 猿田彦大神

此神ハ・天孫降臨ノ時・衢ニ立テ其鼻ノ長サ
 七咫【咫八寸也】背長七尋・眼八咫鏡・
 絶然似ニ赤酸
 誓一・八十万神皆目勝テ相問フ事ヲ不得・時
 二天鈿女命ニ勅シテ問シム・天鈿女命露ニ其
 胸乳ニ
 抑裳帶於臍下一・哭嚙而向立・是時衢神

問曰・天鈿女汝爲之何故耶・對曰天照
 大神ノ子所幸道路・有ニ如此君之者誰也
 敢問・衢神對曰・聞ニ天照大神之子今當
 降行一・故奉レ迎相待吾名是猿田彦大神

也【云々】・天孫降臨ノ道ニ立フサガツテ・天鈿女
 ノ武ケ掛ルニ依テ・還テ天孫ノ啓行セシ神也・
 サレバ此神ハ・人心是危トイヘル者カ・天鈿女命
 ハ・道心是微ト云者カ・サレトモ道ノ心武ケ勝ニ依
 テ・人心ヲ屈伏シテ・道ノ心ニシタガヘケル時ニ・明

德

ノ發見ノ様ヲ・如レ此譬テ云ナルヘシ・猿ハ面赤ク
人ノ慙耻ノ時ノ如キ性ナリト云ヘバ・惡ニ徴リテ
善ニ入ベキ称也・田ハ如レ此ノ田地トイヘル義ナレ
バ・

其地ト云ガ如キカ・彦ハ男子ノ美称也・
事勝國勝長狹神 又名鹽土翁

59

此神ハ天孫降臨ノ時・吾田ノ長屋ノ笠狹ノ
御碓ト云所ニテ・國在耶ト問玉フ時ニ國在
隨勅奉ラントノ玉ヒシ神也・事勝國勝ハ事ト
相トニ勝タル也・長狹ハ長シナヘニ狹ト云文字
ナレバ物ノ摸ナドノ理也・又鹽土翁ト云ナレバ・此
神ハ凝ル事ヲ掌ル精氣ノ神也・事ト相トヨリ
マサレルハ未空ニハマサラズ・サレハ凝ベキ精ヲ云
カ・

58

シホハ潮ヲ煮テ凝テ鹽トナル・サレバ國土ノ凝
リカタマルベキ精氣ノ神ナルベキカ・

火進命

彦火々出見尊
火明命

57

此三神ハ火瓊々杵尊木花開耶姫ヲ妃トシ
テ幸・一夜ニシテハラミヌ・火瓊々杵尊イツハリ
ナラントノ玉フヲ木花開耶姫恨ミ奉リテ無
戸室ヲ作りテ・入居リ誓テ曰 妾ガ所娘
若 非 天孫ノ胤 必ヤケホロビン・實ニ天孫ノ胤
ナラバ・火毛不レ能 害ト「云々」則火ヲ放テ燒室
始 起 烟 末生出兒ヲ火進 命ト申ス・次ニ熱ヲ
去リテ生出ル兒ヲ彦火々出見尊ト申ス・次ニ
生出ル兒ヲ火明 命ト申スト「云々」

56

蓋此理ヲ考ニ・火瓊々杵尊ハ寅宮ノ日ノ德ニ取
テ申時ハ・日影高ク萬山ノ頂ニ輝テ・山ノ万物ノ
生氣ヲ成ス・山ハ草木ヲ以テ最トス・故ニ木花
開耶姫ヲ后トシ玉フト云・花實ヲ生スル所也花
ハ木ヨリ生ズル故火德ニ取テ赤カキヲ正色トス・
室トハ是理ヲ表ス・草木花實ハ・地ヨリ生ズト
イヘトモ・其生ズル所以ハ・日ノ德也・故ニ誓クウタ

55

ガウテ・後ニ決定ストイヘルハ・地ヨリ生スルモノハ
地ノ德ニテ日ノ德ト見エヌ様ナレ共・日ノ德ナ
リト云心歎・火室ヨリ生ジ玉フト云ユヘニ・兄神ヲ

ホノスリノミコト
火進 命ト云ヒ・中ヲ彦火々々出見尊ト申シ・
スエ 火ヲカリノミコト
末ヲ火明 命ト云
ヒコホ、テミノミコト
彦火々々出見尊

ナルベシ此神ノ御誕生ニ三神ヲ立テ兄神ヲ
立事ハ此神ヲ卯ノ宮ノ中央ニ取テ云カ・然バ
火進 尊ハ・卯ノ上刻ノ日ノ徳・此神ハ卯ノ中
刻正宮ニ取テ・火々出見尊ヲ卯ノ正宮ニ出
テ郡類仰見ベキヲ云此神海神ノ娘豊玉
姫ヲ后トシ玉フト「云々」
神代卷云・兄火進 命 自 有 二海幸 一 幸 此
云左知 一 第

ヒコホ、テミノミコト マシマスマヤサチ ハシメアヲトタリハシラ
彦火々々出見尊自 有 二山幸 一 始兄弟 二一人
アヒカタラ玉ク コノミセントシテカハ サチツイイイカフ ヲノノスヘソノ
相 謂 曰 一 試 欲 一 易 幸 遂 相 易 之 各 不 得 其
サチテ コノカミヲヒミテ スナハチテ ヲトシテニミヤ
利 一 兄 悔 之 乃 還 二 弟 弓 箭 一 而 乞 一 己 鈎 一
弟 ノミコトキニ 時
スエニウシナフカミノチヲ
既 失 二 兄 鈎 一 無 由 二 訪 覓 一 故 別 作 二 新 鈎 一
アタコノカミニ
與 兄 一
コノミカニウケエ ハタルソノモトチヲ ヲトシテニウケテ スハチモテ
兄 不 肯 受 一 而 責 其 故 鈎 一 弟 患 之 即 以 其
カタチ シテニイシキチヲ モリヒトヲ アタヘ玉フ コノカミイカフテ
横 刀 一 鍛 作 新 鈎 一 盛 二 筭 一 而 與 之 兄 忿

之
日・非我故鈎一雖一多 不取益復急責・故彦
ノ玉ハク スハ アガセトノシ イヘモサハトシト云テトラマヌマタセメハタル カレヒコ
火々出見尊 憂 苦 甚 深 一 行 二 吟 海 畔 一 時 逢 二
シホツ、ノヲチニ ヲチトイテク ノシテコ、ニウレ玉ヘルヤ フルニ
鹽土老翁 一 老翁問曰・何故在 此 愁 乎 一 對
スコトノアルカタヲ ヲチノ申クマタケルヘマシ アレマシメニイマシメトノ
以事之本末 一 老翁曰 勿 復 憂 一 吾 當 爲 汝
計 一 之 乃 作 無 目 籠 一 内 彦 火 々 出 見 尊 於
籠 中 一 況 二 之 干 海 一 即 自 然 有 二 可 怜 小 汀 一 可
／＼ 怜
此云 二 干 麻 師 一 汀 此 云 二 波 麻 一 於 是 棄 二 籠 一 遊 行 一
忽 一 至 二 海 神 之 宮 一 一
ソノミヤ タカキヒメガキトヲリ タカヒノキリカキリ カレノマヘニアリ ヒトツノ
其宮也 雉 堞 整 頓 一 臺 宇 玲 瓏 一 門 前 有 二 一

井・井上 有 一 陽 津 杜 樹 一 枝 葉 扶 疏 一 時 彦
ホ、テミノミコトツイイカフモトニヨボイタズミ玉フ ヤヒサケシテ
火々出見尊 就 其 樹 下 徒 倚 徬 徨 一 良 久
アリ ヒトノヲトメ ヲシヒイテトシラガ イテツイイモテ タマノマリ キチマサニム
有 二 一 美 人 一 一 排 闥 而 出 遂 以 二 玉 鈎 一 未 當 汲
ミヲ ヲチアウキテミケマツル ヲトテ 次リテマツルカケルコトハ
水 一 因 舉 目 視 之 一 乃 驚 而 還 入 白 其 父 母
イハク マシマヒトノメツラシキト マス カト マノコノモトニ ワタツヲ カミコ、
曰 一 有 一 希 客 者 一 在 二 門 前 樹 下 一 海 神 於
是 一
ヤ エダ、ミヲ モテヒイテイル イシツマリ玉ヒタルニヨツテフテソノイデマセル
鋪 二 八 重 席 薦 一 以 延 內 之 坐 定 因 問 其 來
意 一 時 彦 火 々 出 見 尊 對 二 以 情 之 委 曲 一 海

海神ノ娘ナレバ智水ノ精ナルベシ・智水円満

45 ノ豊玉ノ心・水精ノ玉ノ如キ德ト云心カ・

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊

地神第五代御神也神代卷二云豊玉姬

謂二天孫一曰・妾已娠矣・當産不レ久・妾必

以二

風濤急峻之日・出二到海濱一・請爲レ我作二産

室一相待矣・彦火々出見尊・已還レ宮一

道

海神之教一 又曰後豊玉姬果如二期

44 将其二女弟玉依姬・直冒風波一未到海邊・

速一臨産時・請曰妾産時幸勿以看之・天

孫猶不能レ忍・竊往覘之・豊玉姬方産

化

爲龍一而甚慙之日・如有レ不レ辱レ我者・

則使二

海陸相通一永無二隔絶一・今既辱之・将何以

結二親昵之情二乎一乃以草裹レ兒・棄之海邊

閉二海途一而經去矣・故因以名レ兒曰彦波

43 激武鸕鷀草葺不合尊

蓋此理ヲ考ニ水ノ靈ハ龍也・故二豊玉姬ノ

龍二ナリテ産玉フト云・産奉リテ海神ノ海

二帰リ玉フト云ハ・天孫ハ天ノ靈也・水ノ靈ノ天ノ

靈ニ・親トシ貴マルヘキニ非ザルガユヘニ・海中二帰

玉フト云カ・天孫貴ガタメナリ・今日ノ上二モ・天

子ニ父母無ト云如キガ・猶深々ノ可レ有理・此

42 神ハ辰ノ宮ノ日ノ德ヲ申奉ル歟・彦ハ讚美詞・波

激ハ誕生ノ地・武鸕鷀草葺不合トハ・此神ノ産

屋ヲウノ羽ニテフキテ拵玉フ時・不合葺内二生

玉フニ依テ・如此申トナリ・ウノ羽トハ蒼天ヲ云

ナルベシ・如何トナレバ天ハ皆生氣ナリ仁也・鳥ハ

木德ヲナレバ・鳥ヲ以テ生氣ニ喻・其中二鸕鷀

鷀ヲ云事ハ・ウハ魚ヲ吞鳥也・然レバ水ノ靈

41 二勝鳥也・是故二蒼天ヲ鸕鷀羽ニ喻事・佛法

二金翅鳥王ヲ云ガ如キカ・葺不合トハ・天東

南二足テ西北二不レ足・地ハ西北二足而東南二不

足ノ云ヒカ・猶深々ノ可レ有理・

玉依姬

豊玉姬・妹・葺不合尊ノ后也・豊玉姬ハ海水

ノ精神・玉依姫ハ地ノ清水ノ精神カ・葺不

40 合尊・辰ノ宮ノ日ノ德ニテ・地ニ移テ地上ノ万物ノ生

氣ヲ催ス・此時地上ノ物ヲ生スルハ・水氣日ノ德

ヲ受テ・万物ヲ生ズル故ニ・水ノ精・玉依姫ヲ后

トスト申スカ・

已上地神五代日天ノ子ニ始テ辰ノ宮ニ昇ル

マデヲ次第シテ此日天ノ德ニテ地ヨリ万物

ヲ生ズル地理備ルヲ云歟・山ノ日影ハ科照ト云・

39 海ノ日影ハヲシテルト云フ・清水ノ日影ハニヲ

テルト云フ・

子ハ根也・故ニ地下ニ有テ根元ヲ保ツ・

丑ハ鬱也・故ニ地中ニ有リ・

寅ハフルヒ出ル也・平旦日出也明闇ノ時也・故ニ今日

ニモ・分明ナラザル事ヲ・ドラト云ガ如シ・

卯ハ得也・日卯ノ正宮ニ出テ・万物各其精ヲ

38 得ル也・

辰ハ立也・天地万物ノ立也・

巳ハ實也・

此理ヲ以テ地神五代ノ地理ノ次ニ神武天

皇ヲ巳ノ宮ニ當テ人皇ノ始トスルカ人ハ則

神也正ク日神ノ正統也・

彦五世命

37 稲飯命

三毛入野命

此三神葺不合尊ノ御子・神武天皇ノ

御兄也・彦五世命・彦讚美辞・五瀬ハ巽ノ

卦ノ数ヲ云・巽ハ枯木也震者生木也・震苗

也・巽ハ稲也・稻枯テ穀ヲ取ル理ナル故ニ・稲

飯命ト云カ・三毛入野命ハ・一年ニ初夏ハ麥・

36

季夏ニハ粟黍・秋ハ稻如此三度穀ヲ取ヲ

三毛入野ト云カ・此三神ハ巽掛地戸ノ理ヲ分

テ云ト見エタリ・サテ第四ノ御子ヲ神日本磐

余彦尊ト申テ正統トスル事ハ・巳ノ宮ノ日

ノ得ニアツル故ニ・巳ノ刻ハ四ツ時ナルユヘニ・第四

御子ヲ正統トスルカ・

神日本磐余彦尊

35

人皇第一代神武天皇ノ御事也・神ハ天

理也・日本ハ地理・磐ハ堅固ノ称也・然ハ人ハ則

天地ノ昊也・此德ヲ堅固ニ受玉ヒテ・天地人ノ三才
ヲ凡^ステ・御身ニ任セテ天理ト一徳ナルハ・余也^ア・

彦ハ男子ノ美称讚美之^詞・天長地久安國^{ハヤスクニ}「止」
平^{タイラ}「介久」^{ケク}知食^{シヨシメ}「須」^ス天皇^{スメラミコト}「乃」^ノ御祖也^{ミヤヤカ}・

V

135 九ハ陽ノ限・二ハ陰ノ限ナリ・以^レ此^レ國^ヲ

ト云・一十百千万ハ皆無數ノ処ナリ・

更ニ無^ニ多少廣狹^一カコミアルヲ國ト

云・人心ノ内外精粗遠近廣狹モ・皆是ハ

國ノ限量ナリ・然ル時ハ・人トシテ無^ク

不^レ在^レ國^ニ・物トシテ限量アラスト云事^{云コト}

ナシ・

(うえた ばく・実践女子大学助教)